

WEEKLY FrontLine

November 2nd Week, 2005

www.usfl.com

NO. 284

U.S. FRONTLINE NEWS, INC.
ロサンゼルス支局

330 Madison Avenue, 2nd Floor, New York, NY 10017
18511 Broadwick Street, Rancho Dominguez, CA 90220

Tel: 212-922-9090
Tel: 310-604-1371

これがアメリカの一流教育だ！ ボーディング・スクールの正体



P-15

Photo: Linsly School

これがアメリカの一流教育だ！ ボーディング・スクールの正体

単なる優秀な中学高校ではない。芸術や文学にも通じる文武両道を実現し、個性とリーダーシップを重視する。アイビー・リーグへの合格者輩出を目的としないうちにもかかわらず、学術的にも感情的にも、そして文化的にも豊かな人間を育てる結果、ハーバードやエール、プリンストンへの合格者を続々と生み出す。ボーディング・スクールとはそういうところだ。卒業生の多くが、財界や政界、芸術界、学術界の要人になっていくボーディング・スクール。厳選された人たちが経験できるボーディング・スクールとは、いったいどのような学校なのか。

文/石角完爾

編集・構成/原口健一 デザイン/須藤幸子

石角完爾 (いしかく かんねる)

1947年生まれ。弁護士。千代田国際経営法律事務所の創設者。京都大学法学部在学中に司法試験合格。読者省「読者座席」を経て、ハーバード大学法科大学院とペンシルベニア大学法科大学院の特別課程を修了。弁護士および教育コンサルタントとして活躍。「ボーディング・スクール父兄の会」(<http://school.chiyodakokusai.co.jp>)を東京とニューヨークで主宰。その傍ら、経営書や教育書を多数執筆。

Baylor School

Baylor School

ボーディング・スクールの15の特色

アメリカには公立の中学高校が何万校と存在し、また、私立の中学高校も全米に何千校とある。私立の中には特に大学進学に力を入れているプレップ・スクールと呼ばれる一群が存在する。私がこれから説明するボーディング・スクールは、日本の学園に当てはめるならば中学校と高校に相当する。日本人の中には、ボーディング・スクールとプレップ・スクールがぼんやり入り交じっている印象を持つ人も多いのではないかと想像する。しかし、ボーディング・スクールにはプレップ・スクールと決定的に異なる特徴がたくさんある。

ボーディング・スクールの数は極端に少ない。全米でわずかに約350校しかない。その中でも、教育コンサルタントとして私が日本人のご両親たちに薦めている学校は約200校に絞られる。そこでまず、ボーディング・スクールがほかの学校と比べてどのように違うのか簡単に分けるように15の特徴を挙げてみる。教育現場の理想がそこにありそうなお思いがしてくる特徴ばかりだ。

- ①ほとんどの場合、全寮制
- ②徹底的な少人数制(1クラス15人以内)
- ③州政府や地方自治体から独立し、政府規定の履修事項や基準に服さない
- ④教師陣が生徒などと一緒に寝起きし、24時間体制で教育にあたる
- ⑤教育理念の重点はリーダーシップと独創性の涵養
- ⑥ほとんどの学校が非常に長い歴史を持つ
- ⑦ほとんどの学校が人里離れた田舎にある
- ⑧教師の多くが修士課程を修了しており、博士号を取得している教師もいる

■ 主要183校の平均的な姿

学年	9年生～12年生
学校タイプ	共学
創設年	1890年代
キャンパス面積	195エーカー(約0.79平方キロメートル)
生徒数	9年生～12年生の合計260人
有色人種の割合	15%
留学生の割合	13%
入寮生の割合	75%
1クラスの生徒数	12人(全米の高校全体の平均は20)
先生対生徒の比率	1:7
APコースの割合	20
大学院以上の学位取得教師の割合	60%
資産総額	1400万ドル
年間学費(入寮生)	3万2725ドル
年間学費(通学生)	1万9500ドル

*APコースとは大学で教えられる教科のことで、大学進学後に単位として認められる履修科目のこと
出典: <http://www.boardingschoolreview.com/toptwenty.php>

- ⑨校則順守を徹底させ、違反者には厳罰を科す
- ⑩大学の単位を取得できる
- ⑪学校によって力を入れている分野が多様多岐。各種スポーツや芸術でそれぞれの強みを持ち、オリンピック選手や芸術家を輩出してはいる学校が多い
- ⑫キャンパスが広大。日本の平均的な大学キャンパスの何十倍もあるところは珍しくなく、あらゆる設備が豪華
- ⑬大学や大卒後の行き先がまったく違っても、ボーディング・スクール時代の友人が生涯の友になる
- ⑭大卒後、大学院に進学する割合が高い
- ⑮在校生や卒業生に有名人が多い。例えば、ジョン・F・ケネディやジョージ・ブッシュ親子、ジョン・ケリー前民主党大統領候補もボーディング・スクール出身。外国元首の子息も多い

すべての特徴を詳しく語れば1冊の本になってしまいうし、実際私は本に書いた『ジャパン・タイムズ』が2000年に出版した「アメリカのスーパーエリート教育」*。細かな部分は同書に任せるとして、ここでは、ボーディング・スクールの歴史的背景をはじめ、勉学のための環境、芸術とスポーツ、学費、留学生受け入れ、という観点からその姿を浮き彫りにしてみたい。

具体的特徴を詳しく見ていく前に、ボーディング・スクールとはいったいどういうところなのか、主な数字で全体像をさぐってみよう。全米に約350校あるボーディング・スクールの中には、学習能力障害児を集めた学校や、芸術もしくはスポーツに特化した学校も含まれている。そこで、特殊な学校を除き、ボーディング・スクール・レビューが情報収集している主なボーディング・スクール183校の各種平均を一覧表にして、まずはその輪郭を見てみる。

軍事系共学ランドルフ・メイソン・アカデミーの
主要校舎。ここには事務局と男子寮が入っている

Randolph-Mason Academy

■ 主要183校のうち創設年が古い10校

順位	学校名	学校タイプ	学年	創設年
1.	West Nottingham Academy	共学	9～12年生	1744
2.	Linden Hall School for Girls	女子校	9～12年生	1746
3.	Governor Dummer Academy	共学	9～12年生	1763
4.	Salem Academy	女子校	9～12年生	1772
5.	Phillips Academy Andover	共学	9～12年生	1778
6.	Phillips Exeter Academy	共学	9～12年生	1781
7.	Georgetown Preparatory School	男子校	9～12年生	1789
8.	Fryeburg Academy	共学	9～12年生	1792
9.	Lawrence Academy	共学	9～12年生	1793
10.	Cheshire Academy	共学	9～12年生	1794

出典：http://www.boardingschoolreview.com/toptwenty.php

■ 「The Ten Schools」の顔ぶれ（順不同）

学校名	所在地	創設年	生徒数	年間学費 (入寮生/通学生)
Choate Rosemary Hall	Wallingford, CT	1890	850	\$35,360/\$25,680
Deerfield Academy	Deerfield, MA	1797	603	\$34,250/\$26,320
The Hill School	Pottstown, PA	1851	485	\$32,500/\$21,900
The Hotchkiss School	Lakeville, CT	1891	567	\$33,310/\$27,075
The Lawrenceville School	Lawrenceville, NJ	1810	807	\$34,570/\$28,180
Loomis Chaffee	Windsor, CT	1874	720	\$34,800/\$26,200
Phillips Academy Andover	Andover, MA	1778	1083	\$31,160/\$24,220
Phillips Exeter Academy	Exeter, NH	1781	1050	\$33,000/\$25,500
St. Paul's School	Concord, NH	1856	530	\$34,965 (全寮制)
The Taft School	Watertown, CT	1890	570	\$35,000/\$26,000



Hotchkiss School

ホットキス・スクールの全景。湖も体育の授業の教室となる



The Linsley School

リンズリー・スクールのキャンパス。
寮の前でくつろぐ生徒たち

国より古い学校もある

ボーディング・スクールには歴史がある。ボーディング・スクールはそもそもイギリスで始まった。イギリスでは「パブリック・スクール」と呼ばれ、イートンやハローといった1600年代に男子校として設立された名門校があり、首相や国会議員を輩出してきた。簡単に言えば、そういう国からアメリカに入植してきた移民たちが「パブリック・スクール」を持ち込み、ボーディング・スクールとなった。

彼らの入植初期、アメリカには学校がろくになかったため、入植者たちは自分の子弟を教育する学校を自ら創設しなければならなかった。江戸時代の寺子屋のような存在だったわけだ。古い学校は1700年代初期にはすでに存在していた。アメリカ独立宣言が1776年だから、歴史のあるボーディング・スクールはこの国よりも古い。その点、ブレック・スクールは、アメリカなりの学校制度が確立されてから発展したため、ボーディング・スクールより後に出てきた学校だ。

寺子屋として始まったボーディング・スクールは当時、小学校と中学校、そして高校までの役割を果たしていた。アメリカへの入植黎明期には、大学教育まで視野になかったのかもしれない。読み書きとソロバンは親が教えるとしても、それ以上になると、やはり学校が必要だったようである。ボーディング・スクールの小学部は、やがて需要がなくなり、中学校が中心となり、現在に至っている。

東海岸の田舎に集中

1700年代初期の移民者による子弟教育が始まりから、ボーディング・スクールは必然的に東海岸の北半分に集中している。カリフォルニア州や中西部にも有名なボーディング・スクールはあるが、やはり名門校の多くは東、特に北東部に集中している。

名門校の大部分は、コネチカットやマサチューセッツをはじめ、ロード・アイランド、ニューハンプシャー、バーモント、メイン、ニューヨーク、ペンシルベニア各州の大都市を避けるように点在している。それが、広大なキャンパスを可能にする背景になっている。さらに、勉強や芸術、スポーツに集中できる環境にもなっている。

アメリカには「ザ・テン・スク

ールズ (The Ten Schools)」という言葉がある。教育関係者なら誰でも知っている言葉で、東部の有名ボーディング・スクールの中でも特に有名な10校を総称した呼び方だ。それらすべてが米北東部に位置する。

ただ、有名というだけで個々の生徒に向いているとは限らないので、学校を選ぶ場合には学校の特徴や学風が自分に合うかどうかを慎重することが必要だ。



少人数制の 手とり足とり教育

一般的にボーディング・スクールの教員対生徒の比率は1対6ないし1対7と言われている。中には、家庭教師（チュータリング）方式を主流にする学校もあり、そういうところだと教師1に対し生徒3の場合もある。一般的には、ほとんどの名門校は1回の授業の生徒数を最大で約15人（平均7-8人）と限定している。従って、1クラスの生徒数が15人を超えると、それを2クラスに分割して別々に教える。

少人数制の特色は、教師と生徒が丸テーブルを囲んで座り、議論方式で授業が進んでいくことだ。これをハークネス・メソッドと言ひ、ボーディング・スクールの授業風景の決定的な特色となつている。これについては、別の項目でさらに詳しく取り上げる。

少人数制のもう一つの特色は、学校が生徒の成績と担当教師の感想や意見を隔週で親元にEメールするというきめの細かさだ。

また、多くのボーディング・スクールでは、その日その日という授業をしたのかといった情報や報告がウェブサイトに掲載し、生徒の親が学校での出来事をいつでも簡単に読めるよう配慮している。

政府の干渉を 受けない

国家よりも歴史が古く、移民の国の名士たちが子弟教育を目標に開設したという背景から、ボーディング・スクールは政府と名の付く組織から予算や援助を受けずに今日に至っている。

つまり、州政府や地方自治体の干渉を受けない。従って、政府の教育要綱とも無縁だ。

そのため、ボーディング・スクールは独自の教育理念と哲学を掲げ、独自の履修科目を組み立てる。州政府や地方自治体が公立学校に提示する教育指針にとらわれず、演劇や文学、スポーツ、芸術、音楽といった分野に特化した強みを持ち、生徒たちの情操教育にかなりの時間と知力を注ぐ。そして、その伝統は今でも続いている。その点でも、アイビリー・リーグへの進学に重きを置いているプレップ・スクールと決定的に異なる。



Hotchkiss School
ホッチキス・スクールのコンピュータの授業。これで1クラス全員



バイオリンを演奏した生徒の個人授業



スタディー・ホールと食事会

スタディー・ホールはほとんどの学校で夕食後の2時間だ。一般的には午後7時から午後9時まで。その後、消灯時間の10時半くらいまでが自由時間となるわけだが、その1時間半がボーディング・スクールのボーディング・スクールたる所以とも言える時間でもある。

この1時間半に何が起るかと言えば、勉強熱心な生徒はもちろん、授業について行けない生徒も先生の部屋や家に押しかけ、質問攻めにするのだ。先生はそこで消灯時間まで生徒たちに個人指導を施す。

朝は6時半から7時に起床。シャワーを浴び終わると、教師陣と生徒らが食堂に集まる。学校によって、その場で点呼するところもある。朝食時に点呼する学校の場合、生徒の座席が決まっているところが多い。また、そういった学校では制服があるところも多い。

そのほか、学校によっては、昼食が夕食の時間に週1回程度の頻度で食事会が開かれる。これは、「シット・ダウン・ランチ」とか「シット・ダウン・ディナー」と呼ばれる行事だ。プレザーとネクタイ着用で生徒と先生が同じテーブルで食事するのが決まりになっている。出席する先生は食事会の度に替わる。学期が終わるまでには全ての生徒が全ての先生と親交を深める機会を得られるよう配慮された行事と言える。

24時間体制

近年のボーディング・スクールの中には、入学生確保の難しさから通学生を受け入れる学校もかなり増えたものの、名門校のほとんどは原則として全寮制だ。しかも、校長をはじめとする教陣も基本的には全寮制で、それがボーディング・スクールのらしさの代表的特徴でもある。さすがに校長先生だけはキャンパスの中の一軒家に入居する場合が多いが、ほとんどの教師は寮で生徒と寝起きを共にしている。

従って、ボーディング・スクールの授業は普通の学校のように午後には終わらない。放課後になると、スポーツや芸術、演劇、踊り、音楽の

時間があり、補習が行われる。ボーディング・スクールではその補習を「スタディー・ホール」と呼んでいる。各生徒が、指定された場所で先生立ち会ひのもと、学習するのである。

スタディー・ホールのやり方は学校によってさまざま。あるところでは、生徒が講義室に集まることもあれば、別の学校では、寮の各部屋で開くところもある。学校が違っても共通しているのは、スタディー・ホールの間（2時間）が最も一般的、勉強以外の私語を禁じていることだ。そして、先生が出席するのも共通点で、先生への質問は大いに奨励されている。



キャンパス中央にあるスタディー・ホールで就寝前の勉強



ハークネス・メソッド という授業方式



寮生たちがくつろぐ広間のコンピュータで検索するアンナさん



ワイヤレス通信完備のコンピュータが50台あるチェシャー・アカデミーの図書館

ハークネス・メソッドとは、既述のように議論形式で授業を進めるやり方だ。数学の授業でさえ生徒同士の議論中心に進められる。先生は通常、ほとんど黙っている。これで数学の授業が進んでいくのである。ボーディング・スクールでは、教式を黒板に書いて説明することは先生の役割ではない。従って、授業中の先生の仕事は、議事進行と翌日の授業のための宿題を課すくらいとなる。

ハークネス・メソッドの特色はもちろん、歴史や地理、国語で発揮される。一つの主題ごとに賛成派と反対派に分かれ、生徒が討論する。宿題も問題を解いたりするのではなく、小論文(エッセー)が中心となる。

議論形式の授業や小論文形式の宿題が中心のハークネス・メソッドを通じて養われるのは独創性だ。授業中の議論では、自分独自の意見を持つていなければ議論に参加できない。沈黙が続くと成績は悪くなる。

やる気を出させる教育と リーダーシップ教育

ボーディング・スクールでは、何らかの理由をつけて生徒を頻りに表彰する。努力賞、敢闘賞、奮闘賞、絵画優秀賞など切がない。1学期を通してほぼ全生徒を1回は全校集会で表彰して賞状を渡したり、受賞者を貼り出したり、寮のドアに印をつけたりする。生徒も当然喜ぶ。そしてやる気が出る。それもボーディング・スクールの狙いであり、特色とも言える。



フィリップス・アカデミー出身のブッシュ大統領

グ・スクールでは徹底して実施され、それがリーダーシップ教育の中心となっている。

発表してもらったり、歌を歌ってもらったり。そういう機会が1学期中に全生徒に必ず1回はめぐってくる。カリフォルニア州の名門校では、12年生(高校3年生)の卒業条件として全校集会で自分の研究内容を30分にわたって発表し、その後、30分の質疑応答を受けることを教科に組み込んでいる。大勢の前で自分の意見を論理的に主張する練習というの



校則違反は 即退学

ボーディング・スクールの校則は厳しい。厳密に言うならば、校則の厳しさは普通だが、校則を守る努力と違反した際の罰が通常の公立校や私立校に比べて遥かに厳しい。ニューヨーク州にある名門校では、1学年の生徒の5分の1を退学させたこともある。また、ペンシルベニア州の名門校では、ある国から

容赦なしの 放校

大変である。親が迎えに来る時間もない。通常、荷物の整理を友達に手伝ってもらい、全ての荷物を校門の外に一緒に運び出す。一般的には、処分を知らされて荷物を運び出すまで2時間しかない。遠い州から駆けつけて来た親の場合、校門の外に荷物と一緒にぼつんとたたずむ我が娘や息子と路上で対面する羽目になるのだ。

大学の単位を取得 できるAPコース

い。生徒たちがAPコースを取れるよう普通コースを早く終了しようと競うのもボーディング・スクールの特徴になっている。ボーディング・スクール側でも、APコースの科目を多くそろえることが優良学校条件の一つになっている。APコースを用意する。それは同時に、大学講師並みの先生を雇わなければならないということも意味する。ボーディング・スクールの教師陣に修士号や博士号取得者が多いのはそういう理由があるというわけだ。

暗記しようが ない試験

エッセーでも、既に発表されている意見を流用して提出しようものなら、成績が悪くなるどころが、退学処分になることもある。ボーディング・スクールでは、剽窃行為(盗作)を重大視する。独創性のある見方や考え方、意見を自分の言葉で主張することに重点を置いているためだ。言い換えると、ボーディング・スクールの試験では暗記勉強が役に立たない。例えば、生物学でこんな試験問題が出る。「君が生物学者だとして、アマゾンの奥地で新種の植物

を発見したと仮定し、その新種について論ぜよ」というものだ。そういう論文形式の試験の場合、問題用紙を朝10時に受け取り午後4時までに提出するという持ち帰り試験もある。その間どこへ何をしても構わない。ある名門校では、日本史の試験で「第2次世界大戦で仮にアメリカが負けたとして、その敗戦直前に制空権を奪った日本空軍がアメリカ本土にばら撒くアメリカ国民のためのビラを立案せよ」という問題が実際に出題されたことがある。



ボーディング・スクールで
盛んなラクロス授業



オリンピック強化選手も

芸術とスポーツが 非常に盛ん



ESLキャンパで乗馬の授業を取った日本人留学生まゆさん

これまで見てきたような特徴からは、勉強ばかり競わせる合宿のような学校がボーディング・スクールという印象すら伝わりかねないが、実際には、スポーツや芸術にかなりの力を入れている。各ボーディング・スクールは一般的に、乗馬やボート、スキー、演劇、ダンス、文学、音楽、美術といった独自の強みをそれぞれに持っている。

これは、アメリカの大学入学審査が、統一試験の結果だけで決まるのではなく、課外活動の内容や小論文、オフィス方式などからもある。アメリカの大学入試審査では勉強がで

るだけでだめで、勉強以外の分野でどれだけ成果を上げているかも重視される。その結果、大学進学を目指す生徒はスポーツや芸術、ボランティア活動といった課外活動にかなりの時間を割く。

極端に言えば、勉強が多少できなくともスポーツや芸術で目を見張るような成績を取れば大学に入れる。例えば、音楽に力を入れている生徒は自分の音楽CDを入学審査部に提出したり、あるいは絵画やダンスに力を入れている生徒は自分の作品集をDVDに収録し、入学審査部に願書と一緒に送るのである。

また、ロード・アイランド州にある名門校では、海岸沿いの立地を活かしてヨット競技に力を入れている。大きな外洋クルーザーを学校が所有し、3カ月かけてカリブ海まで行って戻ってくるという外洋航海授業を行っている。

一方、イリノイ州の名門校では飛行場を所有し、生徒たちに飛行機操縦を教えている。この学校では父母が授業参観のために自家用機で学校の飛行場に着陸して来る。

さらに、テキサスにある軍隊式の名門校では生徒の制服が迷彩色の軍服で、生徒も全て軍隊階級で組織付けられており、授業の中に実弾射撃訓練が取り入れられている。この学校の第一期卒業生にマッカーサー元帥がいる。

卒業生からも 寄付金

恩恵を享受する のは安くない

設備は大学並みか それ以上

寄付金は、生徒の親たちからだけでなく、卒業生の中には、大学や大学院に進学し、社会に出た後、かなり成功して財を成し、税金に取られるよりはましと考える、図書館を寄付したり、オペラ・ハウスを寄付したり、講堂を寄付したり、入学審査事務局を建て替えたりする人もいます。それが200年以上のボーディング・スクールの歴史の中で繰り返

され、設備が立派になったのだ。大口寄附者の子息や孫は当然、同じボーディング・スクールに優先して入学できる。だから、「これは僕のお祖父ちゃんが寄付した図書館だ」「これは私のお父さんが寄付したコンピュータ室」と言う生徒も多い。図書館の名前として寄附者の名前が付けられているのはそういう背景がある。

子供をボーディング・スクールに入学させるには費用がかかる。入寮すれば、授業料と寮費で年間約3万ドルから3万5000ドル。加えて、教科書代や制服代、医療保険代、個人レッスン代（例えば、音楽、英語の補習代（留学生向け）を入れるとざっと4万ドル近くになる。

さらに、学校から寄付金勧誘がある。強制ではないが、寄付金を求める手紙が別と煩雑に送られてくるのだ。学校側は、寄付金集めのキャンペーンを実施したり、寄付金集めの



Rindolph-Mason Academy



Baylar School

ゴルフ・コースを持つベイラー・スクール。過去15年間にテキサス州の各種大会で優勝者を29輩出している

ボーディング・スクールの設備は公立校や普通の私立校とは比べものにならないほど豪華で、実際には大学よりも充実している学校が多い。北東部のある名門校は、ミラノ・スカラ座と競争できるのではないかと（言っているのは少し大げさだが）と思えるぐらい本格的なオペラ・ハウスを持っている。

一方、スポーツ施設も充実している。陸上競技場やサッカー場はもちろん、アメリカン・フットボール場、バスケットボールコート、ボーディング・スクールで盛んなラクロスやテニス、スカッシュのコート、スキー場、ゴルフ場、室内プール、ボート・ハウスなど、スポーツ施設の多岐さと豪華さを誇る学校は多い。

エンドウメントの規模では
3億2000万ドルを誇るホッ
チキス・スクール



■ 主要183校のうちエンドウメントが 大きい上位10校 (順不同)

学校名	学校タイプ
Phillips Exeter Academy	共学 9～12年生
Phillips Academy Andover	共学 9～12年生
Girard College	共学 1～12年生
St. Paul's School	共学 9～12年生
Hotchkiss School	共学 9～12年生
Deerfield Academy	共学 9～12年生
Groton School	共学 8～12年生
The Peddie School	共学 9～12年生
Choate Rosemary Hall	共学 9～12年生
Cranbrook Schools	共学 9～12年生

出典: <http://www.boardingschoolreview.com/toptwenty.php>

エンドウメント という物差し

一般的な家庭が年間5万ドルの費用をボーディング・スクールに納めるのは難しい。学費の高さがボーディング・スクール経営上の難しさとも言える。ボーディング・スクールは通常、政府から助成金を受け、受けないため、学費を高くして、さらに親や卒業生から寄付金を募らなければ、良質の教育環境を提供できないのだ。

APコースを教えるためには、大学講師並みの人材を何人も雇わなければならないし、高校では考えられない規模の図書館と検索システムを維持するためのコンピュータ施設や図書館司書も確保しなければならない。それに、少人数制だから、生徒数の割に先生が多く、さらに学芸やスポーツ施設も大学並みだから、どうしても学費が高くなり、寄付金に頼らざるを得なくなる。

それでも、ちゃんと寄付金が集まるのは、親や卒業生の愛校精神もあることながら、税制によるところが大きいのは言うまでもない。いずれにせよ、お金はかかるが、公立校や普通の私立校では学問的にも芸術的にも体験できない教育を行う環境は整っている。さらに、立派な人物になるであろう生徒同士が4年間を一緒に暮らすことは、優秀な

人材を一生の友にする機会を得ることにもつながる。

ボーディング・スクールを評価する上で、よく用いられる物差しがある。その学校の資産総額だ。英語ではそれを「endowment」という。このエンドウメントが大きければ大きいほど、より多くの寄付金を集める力があることを意味する。つまり、卒業生に成功者が多く、成功者を出してきた歴史の長さをも示す。

親の負担は お金だけじゃない

留学生の親はそうでもないが、学校の近くに住んでいる親たちが、学校のためのボランティア活動にかなりの時間と労力を割くのもボーディング・スクールの特徴だ。熱心な親の中には、学校の理事会メンバーに加わる親もいる。

勉強面でも親が参加する学校もある。例えば、「親子同時学習方式」といって、週に1度、親を授業に参加させ、親子で同じ教室に座り、授業を受けてもらう学校もある。

ある研究によると、子供が親と一緒に勉強すると、学習効果が上がるといふ結果が出ている。そういった学校では、その研究結果をもとに、授業中に親子間の議論を奨励し、子供への学習効果を最大限に引き上げようと狙っているのだ。

これがアメリカの一流教育だ！
ボーディング・スクールの正体

■ 主要183校のうち留学生の割合が高い上位10校 (順不同)

学校名	学校タイプ	学年割合
Grier School	女子校 7～12年生	30%以上
Idyllwild Arts Academy	共学 9～12年生	30%以上
Montverde Academy	共学 7～12年生	30%以上
Ojai Valley School	共学 3～12年生	30%以上
Olney Friends School	共学 9～12年生	30%以上
Verde Valley School	共学 9～12年生	30%以上
Villanova Preparatory School	共学 9～12年生	30%以上
Wasatch Academy	共学 9～12年生	30%以上
The Winchendon School	共学 8～12年生	30%以上
Annie Wright School	女子校 9～12年生	25～30%

出典: <http://www.boardingschoolreview.com/toptwenty.php>

グリアー・スクールで
ESLの授業を受ける日本
人留学生まなさん



Grier School



ランバート先生 (左端) と仲の良い日本人留学生まなさん (中央) とはなさん

留学生の枠

最近では、どのボーディング・スクールでも生徒全体の10%前後に相当する留学生を受け入れている。アジア人では日本人よりも韓国人が圧倒的に多い。これには、アメリカで子供を教育することに情熱を傾ける韓国人が多いという背景もある。ただ、学校側から見ると、韓国人生徒の親は財閥関係者や事業主が多いことから、多額の寄付をしてくれるというところに本当の理由があるかもしれない。

もう一つは、韓国人生徒が優秀なことだ。コネチカット州のある名門校では、卒業式での総代が男女ともに韓国人だったことがある。また、韓国人は、体格の良い男子がサッカーやレスリングの正選手になり、スポーツでも活躍する例も多い。

元々勉強熱心なこともあって、韓国人のボーディング・スクール出身者の多くはアイビー・リーグの大学に進学していく。名門ボーディング・スクールからアイビー・リーグに行けば、その子の将来の可能性と選択肢は大きく広がる。

そのため、名門ボーディング・スクールに入学希望する韓国人が殺到するという現象が起きており、1校につき年間数人までという韓国人枠を巡り韓国人の競争率が50倍ぐらいに上がっている。

ただ、学校側は、留学生の出身国が1カ国に偏るのは望ましくないと考えている。増加傾向にある韓国人生徒に枠が適用されるのはそのためだ。だから、学校の中には、優秀なアジア人生徒を入学させるためにアジア各地で生徒集めの説明会を開くところが増えている。

また、ボーディング・スクールの多くではヨーロッパ諸国でも学校説明会を実施し、世界中から広く優秀な生徒を集めようとしている。



編集・後記

友人の台湾系米国人デイビッドがロウレンスウィル・スクール（サ・テン・スクールズの二つ）を出ていたことを偶然にも最近知った。映画「デッド・ボエツ・ソサエティ」（邦題：いまを生きて）と全く同じだったよ、と彼は言う。入寮の日、親に連れられて各地から集まって来た14歳たちは、緊張しながら手続きを済ませ、講堂に集まって校長から歓迎の言葉をもらうわけだが、その時には親はすでに立ち入り禁止になるという。

自由時間は平日の就寝前と土曜の午後、そして日曜だけ。その中で彼らは、近所の学校の女の子と密会したり、映画に行ったり、飲食を親がまとめて払っているため、お金を使うことは普段あまりないが、おやつや燃費は自前となる。「当時（85-86年）の高校生がチェックイン口座を持つていたはずもなく、ましてや、クレジット・カードもATMもなかった」。つまり、週末に親元に帰れる生徒たちは、その機会に親から小遣いをもらうのだ。親が遠くにいる場合は、向こう1学期分の小遣いを親が寮長に預ける場合もあるらしい。デイビッドの場合は、入寮初日、親と離ればなれになる直前、父親から現金400ドルをもらったという。それが1学期分の小遣いだった。

学期末のある週末 仲間4

人で映画を観に行くことになったデイビッドには十分な現金が残っていないかった。仲間金に借りることもできるが、彼は親戚のおばさんに電話して、小遣いをもらい、仲間の車でプリンストンまで行つて「トップガン」を観たという。「どうでもいい映画だったけど、ロウレンスウィルから外出することの楽しさが強烈だったから、それでトップガンを覚えていた」と彼は話す。

超エリートの人たちと4年間を過ごすことで、生涯の友は何人できたのか？「ナシ（ゼロ）」と即答した彼は、ちよつと考えると「まれに連絡する連中が二人くらいかな」「街（マンハッタン）を歩いている時に何人かにばったり出くわしたけど、俺は彼らと親しくなかったから。当時は確かに一緒に行動したが、それはそういう環境だったからと彼は言う。

どういう環境なのか。「ボーディング・スクールでは、ハウス（寮の建物）ごとに一緒に行動するんだ。例えば、トーマス・ハウスの入寮したら、同じ寮の連中と暮らすことになる。食堂に行けば、トーマス・ハウスの寮生が同じテーブルにつく」「だから、ロウレンスウィルでは、どのクラスを一緒に取っているかはほとんど関係なくて、どの寮に属しているか、それが仲間関係のすべてだった」。

ボーディング・スクールに関する先入観かもしれないが、彼らの中にはポートとラクロスに凝っている人が多いようだ。デイビッドの言葉を借りるならば、「それにしてもボーディング・スクールでは何であんなにポートとラクロスが盛んなんだ」「俺は結局、興味がわかなかった。でも1日に必ず1時間、スポーツをしなくてはならなかったから、友達のためでゴルフを取った。学校に18ホールあったからゴルフはよくやったよ。デイビッドが90を切るのも、ゴルフのことなら何でも知っているのもそれで合点がいった。

「有名なボーディング・スクールが与えるものは、名門出身という肩書きとネットワーク（人脈）だね。ただ、仕事を始めて何年も経つてくると、公立もボーディング・スクールも同じ。それは大学にも言えることかもしれない」。

でも、行つて良かったと思えないの、と聞いてみると、「良い先生が多かったのは確かだし、いろんな選択肢があった。スポーツの種類も授業の種類も豊富だったし。それに、自分が出るのは嫌だったけど、演劇も盛んで、友達が芝居しているのを鑑賞するのは楽しかった。普通の公立校では体験できないことが多いから、行つて良かったと思うよ」と彼は答えた。